

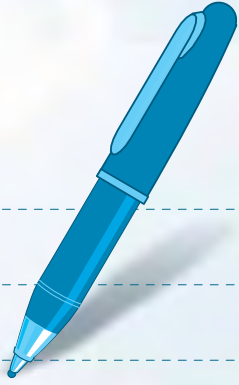
新入社員への手紙

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生がスタートし、心配や不安もある反面、希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、心のこもったメッセージをいただきました。きっと、“土木の魅力とやりがい”を感じ取ることができるはずです。

今回は、技士会が実施する「1級土木施工管理技術検定試験受験準備講習会」の講師と、「事業運営委員会」の委員の方々からのアドバイスです。

- 土木技術者だから味わえる幸せ2
日本道路(株) 東京支店 技術部長 永井 英章
- 多くの「達成感」を経験した技術者に4
(株)熊谷組 首都圏支店 土木事業部 副事業部長 田辺 敏
- 「信頼される技術者」になることを目標に！6
清水建設(株) 関東支店 土木生産計画部主査 中嶋 滋
- ゆっくりでも一步一步進んで行こう8
(株)フジタ 東京支店 土木技術部次長 南方 文明



土木技術者だから 味わえる幸せ



日本道路株式会社 東京支店 技術部長

永井 英章

土木業界に入ってきてくれて、ありがとう。大きな夢と希望を持って入ってこられたと思います。それはどのようなものですか。すっかり忘れてしまいましたが、何十年前に、私も夢と希望を持って入社しました。その時の夢と希望はかなったのか。土木業界に入っ
て良かったのか。土木業界が本当に好きだったのか。土木業界の将来に大きな夢を持って
いたのかなど、いろいろな思いがめぐります。

「娘の結婚式」。娘は私への感謝の手紙を読んでもくれました。そのなかに、娘が子供時
代に私の従事した仕事から受けた感動について述べた一節がありました。娘が、その感動
を大人になった今も持ち続け、誇りに思っていてくれていたことを知った時、土木業界で
仕事をしていて良かったとしみじみ感じました。土木技術者であったことから味わえた、
ほんの小さなことですが、大きな幸せを感じた瞬間でした。

家庭があって仕事がある。家族から認められた仕事ができることは、男にとって幸せな
ことではないでしょうか。皆さんも家庭を持ち、子どもから「ヘー、お父さんはこんな

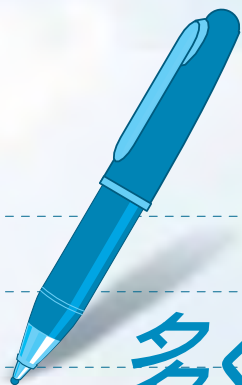
仕事をしているんだ、すごいね」と目を輝かせて言われたらどうでしょうか。何とも言い難い感動を覚えるのではないのでしょうか。土木を選び、土木技術者として仕事を続けてきたことの意義が感じられる人生の一コマになると思います。

この感動をより大きいものにするために、基礎となる自分自身の技術・経験の蓄積・研鑽に努めていただきたいと思います。私はこの面での努力が足りなかったと思っています。特に、上司や先輩から指示を受けた時に、指示された内容が理解できているか、指示された作業を行うための準備や段取りができているのか、落ちはないか等々、確認し、事にあたり、失敗しても何が原因か分析し、次の失敗を犯さないという基本的な経験の蓄積が不足していたと感じています。この点を若いうちにしっかり身につけておけば、大きさは別にして、その後の失敗は減らせていたと思います。

また、先輩や上司に疑問をぶつけ、指導を受けることで、コミュニケーションが進み、自分を理解してもらえる機会も増えます。結果として、先輩や上司からの助言やサポートが増えることになり、業務はスムーズに進むとともに、そこから得られる知識や経験から判断力が身につき、より着実に仕事ができるようになります。仕事ができるようになると、おかしなもので、より忙しくなります。忙しくなりますが、チャンスが増え、新たな局面が展開し、さらに高いレベルの経験を積むことが可能となります。入社して間もない若い時こそ、自分から進んで広く経験を積む時期だと思います。

よく「やりがい」が重要だといいますが、やりがいとはどんなことなのでしょう。人に認めてもらえる。チャンスを与えられる。人に存在感を示すことができる等があるかと思いますが、一朝一夕ではこのような状況には到達できないでしょう。あせらず、時間をかけて、小さなことから一步一步経験・知識を積むことで大きく育っていけると思います。

子どもに、「この工事には、お父さんも携わったんだよ」と胸を張って言える日に向かって頑張りましょう。皆さんの成長を大いに期待しています。



多くの「達成感」を経験した 技術者に



株式会社熊谷組 首都圏支店 土木事業部 副事業部長

田辺 敏

新入社員の皆さん、社会人としての一步を踏み出し、不安と期待で胸がいっぱいのことと思いますが、我々の仕事のおもしろさは、やはり大勢の人たちが力を合わせて、たくさんの資材を使って大地に商品をつくることではないでしょうか。

私も建設会社に入って30年弱になりますが、幸か不幸か道路建設ばかりに携わってきました。その経験を踏まえて、皆さんに3つのお話をしたいと思います。

1つ目は、新入社員のときのことです。現場での業務は、朝から晩まで測量・墨出しの連続で、爪は墨で真っ黒になり、仕事が終わって一杯飲みに行ったとき、恥ずかしい思いをしたことを覚えています。しかし、自分が行っている測量・墨出しが道路をつくるときの基線で、満足する商品の原点であることを認識するようになったときから、小さなミスが間違った商品をつくってしまい、最悪の場合は作り直さなければならないこともあるということがわかり、本当に「怖い」と思うようになり、チェックを繰り返し行うようになりました。

2つ目は、さらに年を重ねてからのことです。大学で学んだ土木工学は「基礎工学」であり、現場に必要な技術は「実践工学」であることを経験し、自分の持っている技術力の乏しさを痛感したときです。皆さん、ぜひ現場の実践工学に必要な「コンクリート標準示方書」「道路土工」「道路橋示方書」の3つのバイブルは、自分でお金を出してでも購入して勉強し、実践工学を身につけてください。

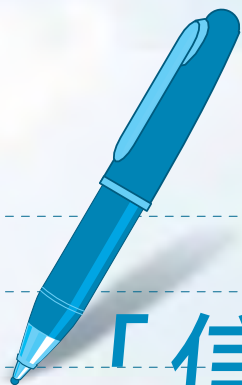
3つ目は、私が携わった道路が完成したときのことです。開通前に、現場配属の社員全員の家族を招いて披露しました。台風・地震があれば休みのときにでも現場に出向き、また、朝早く出社して帰りは遅くまで勤務し、家族と話をする機会がほとんどないこともありました。せめてもの罪滅ぼしのつもりで現場に招待すると、家族は「お父さんはこんな凄い仕事をしていたんだ！」と感動し、日ごろの不義理が少しでも薄まったと思える瞬間が、心の安らぎになったことを覚えています。

新入社員の皆さん、我々の仕事は工場で大量生産の商品をつくる仕事ではありません。さまざまな場所で、あらゆる条件の下で、持てる技術力を駆使し、良い品質の商品を決められた工期内につくることが我々の仕事です。

2つとして同じ商品はありません。だからこそ、商品が完成したときの「達成感」が、建設会社に働く我々の原動力ではないかと思います。

これから、さまざまな現場でたくさんの人と知り合い、多くの知識を吸収しながら、1つひとつ工事を完成させて、「達成感」をたくさん経験した技術者になってほしいと思います。

今後のご活躍を心より期待しております。



「信頼される技術者」になることを目標に!



清水建設株式会社 関東支店 土木生産計画部主査

中嶋 滋

新入土木技術者の皆さん、入社おめでとうございます。

私は、入社してから40年余が経過しました。先輩技術者として、新入社員の皆さんにメッセージをお贈りしたいと思います。そのメッセージは、これまでの経験から得た教訓であり、今でも私はこれを肝に銘じて仕事をしています。

- 「継続は力なり」。どんな仕事でも誇りと情熱を持ち、黙々と腐らず精一杯力を尽くせば、自ずと道は開ける
- 土木の仕事は住民の目線にあわせ、社会に貢献するという姿勢が大切である

私は、若かりし頃、現場から内勤である見積部に異動しました。「見積作業は、受注と利益を確保するために責任は重いが、やりがいのある重要な仕事だ」と思えるようになって

た時から、不思議と仕事が楽しくなりました。そうすると、現場を熟知して見積りの精度を上げるため、国内外のものづくりの現場に数多く出かけることは、決して苦になりませんでした。

今では、土木分野のあらゆる工種の積算、施工計画を手がけるようになり、日々誇りを持って仕事をしています。

そんな私が異動後数年経った時、台湾の台南市に出張し、^{はった よいち}八田與一氏が造った「^{ウーサントウ}烏山頭ダム」を見学したことがあります。八田氏は、日本が台湾を統治していた1920年代に活躍された土木技術者ですが、高さ53m、長さ1,300mの土堰堤の大貯水池を築造し、このダムに1億6,000万tの貯水を行い、灌漑水路だけで延長6,800km、大小無数の導水路によって干ばつに悩む嘉内平原を穀倉地帯に一変させた人物です。

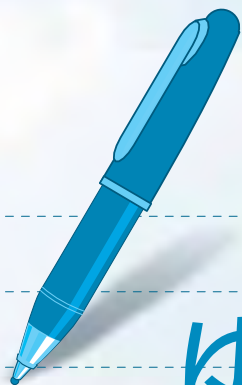
敗戦後、日本人の銅像が撤去されていくなかで、作業着姿の八田氏の銅像は地元農民の願いで保存され、今なおその功績を偲んで、毎年5月8日の命日には追悼式が行われているそうです。

土木技術者としての誇りと情熱を感じつつ、土木の仕事は多くの地域住民の暮らしを支えていることを改めて痛感させられました。

それからの私は、ボランティアや清掃活動、地域住民の方との交流などに積極的に参加し、一市民としての感覚・感性を持って仕事をするように心がけるようになりました。

「阪神・淡路大震災」が発生した際、私はいち早く現地に入り、台船上に寝泊まりしながら不眠不休で復興支援にあたり、現地の方々に大変感謝されたことを思い出します。

新入社員の皆さんは、今日まで支えてくださったご両親をはじめ、先生方や友達への「感謝」の気持ちを忘れずに、私のアドバイスも参考にして、「明るく、元気で楽しく、信頼される技術者」になられることを期待しています。



ゆっくりでも一步一步 進んで行こう



株式会社 フジタ 東京支店 土木技術部次長

南方 文明

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。このメッセージを読む頃は、最初の現場や店内の所属部署に配属され、学生時代とまったく違う社会人としての生活をスタートしていることと思います。特に、建設業の世界は他業種と異なり、戸惑うことも多いでしょう。今後、社会人としての心構えやマナー等について、上司や先輩から多くのアドバイスをいただくことと思いますが、入社20年近く経った現在、私なりに感じていることをお話ししたいと思います。

《土木工事は経験が大事？》

間違いありません。経験が大事です。しかし、経験の少なさは知識でカバーできる場合もあります。わからないこと、迷ったことは、経験者に聞きその知識を自分のものとして消化・吸収しましょう。上司、先輩だけでなく、同期や後輩、専門業者からも知識を得ることが大事です。土木工事は工期が長いので、経験できる工種が限られてしまいます。3年経って1つの現場経験ということもあります。自分の現場だけでなく、他の現場やたくさんさんの工種に目を向けて、情報を得ておきたいものです。若い頃の経験（特に失敗）は、

必ず自分の中に生きており、今後の大きな糧となります。

《これからの現場施工管理の厳しさ》

社会人として明るい未来についてお話ししたいところですが、現在の建設業界は他の業界と同様、非常に厳しい状況にあります。私が入社した20年前と現在の現場の状況を比べてみます。

●20年前の現場……バブル後期の建設ラッシュのため、職員が不足しており、工期に追われて休みが取れない現場が多くありました。しかし、建設業界は元気が良く、若い職員もたくさんいました。バブル前入社の職員が少ないため、直属の上司は10～20歳上の方という現場が多い時代でした。

●現在の現場……今の現場はどうでしょうか？ 現場の所長、次席は入社人数の多い平成2～5年入社が大半でしょう。現場規模は全国的に小さくなっているのも、あなたと上司の2人ということも多いと思います。上司との年齢差は20年前と変わりませんが、状況が激変しています。あなたの上司は、近年の受注競争による厳しい予算のなかで、工事全体を管理し、施主や地元への対応、会社への報告業務等、たくさんの仕事を抱えています。そのような状況のなかで、すべての上司が日常の業務を通し、あなた方を親身になって教育しようと考えています。激務のなかで、あなた方を早く育て主戦力にするため、厳しい言葉を掛け、指導しているのです。

団塊の世代の大量退職により、各企業とも主戦力が急に若返ります。2、3年後には、あなた方が会社の将来を担う人材となります。これからの1年は一人前の社会人・技術者としての土台を築く大事な時期です。日常の業務に追われて、あまり余裕がないと思いますが、たまには一息ついて、業務を振り返ってみましょう。疲れたときは立ち止まって、肩の力を抜いてみましょう。一步一步、ゆっくりでも進んで行けば、いずれ良い結果が得られるものです。